

育ちをつなぐ～園と小学校との協働による円滑な接続の推進～

乳幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続のためには、園と小学校で「期待する子ども像」を共有するなど、協働して子どもの育ちをつなぐことが大切です。育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに子どもの育ちをつなぎ、生かしていくため、子どもを中心とした語り合いを進めていくことが求められています。また、園と小学校で互いの指導方法等のよさを取り入れるなど、保育・授業改善につなぐ意識を高めることにより、話し合いの内容の充実が図られます。

幼小連携の更なる充実に向けて【園と小学校の協働的な取組】

I 幼小連携の目指す姿

子どもを中心とした語り合いから、園・小学校双方のよさを取り入れた保育・授業実践

次のように園と小学校で語り合う機会を確保し、計画、実践、評価等に生かしていきます。

- 組織的・継続的に進めるための組織体制の確認と見直し（組織体制、分掌の確認等）
- 幼小連携年間計画の内容の充実を図るための見直し・検討（子どもの視点での振り返り等）
- 保育・授業参観における視点の共有（「期待する子ども像」に迫る共通の視点等）
- 各種計画の見直し・改善（育ちをつなぐスタートカリキュラムや指導計画等）

II 幼小連携の見通し及び取組内容の充実



月	連携の内容	内容の充実を図るポイント
4	○幼小連携計画の作成 ・連携組織及び内容の確認 ・「期待する子ども像」についての協議 ・保育・授業参観の視点の確認	・園長・校長のリーダーシップの下、互いの職員が協働して子どもの育ちを支えていこうとする意識の醸成 ・「期待する子ども像」の明確化
5	○スタートカリキュラムで学ぶ子どもの姿の参観及び協議 ・子どもの姿からスタートカリキュラムを改善するための協議	・相互参観の日程や協議への参加者を決定するなど見通しをもった幼小連携年間計画の作成 ・スタートカリキュラムで学ぶ子どもの姿において「子どもの育ちをつなぐ」視点で協議
6 5 12	○保育・授業参観、研究協議会への参加 p 4 ○園と小学校の合同研修会への参加 ○園や小学校での交流活動の実施	・視点を明確にした保育・授業参観 ・園での経験を生かした生活科を中心とする授業づくり ・園・小学校双方のねらいを明確にした交流活動
1 5 3	○一日入学 ○スタートカリキュラム作成に向けた子どもの育ちの共有 ○連携体制や内容についての評価・改善	・小学校生活への期待感をもたせるための工夫 ・子どもの育ちを共有し、つなぐためのスタートカリキュラムの見直し・改善 ・次年度に生かす評価及び内容の検討

III 幼小連携の取組についての評価

幼小連携の目指す姿について評価するとともに、園と小学校の協働的な取組について、次の視点で評価し、次年度につなげていきます。

- 園・小学校の全職員で共通理解を図り、園と小学校が協働しながら進めることができたか
- 一年間を通して子ども理解を深め、子どもの育ちをつなぐ取組ができたか
- 子どもの視点に立った計画や実践ができたか
- 園・小学校双方に互恵性のある取組ができたか
- 園・小学校の実態に応じた取組を工夫し、必要感のある取組となったか

幼保関連事業

月 日	事業名	対象	会場
7月26日 (金)	就学前・小学校等 南地区合同研修会	美郷町、湯沢市、羽後町の小学校教員、 就学前教育施設教職員等	羽後町文化交流施設 美里音（みりおん）

資質・能力をつなぎ、生かす取組の実際

共通の視点で保育・授業参観や協議を行うことにより、子どもの育ちや指導の意図を深く理解することができます。子どもの姿を基に協議を重ねながら、小学校側は園での育ちや経験のつながりを理解し、生活科を中心とした授業構想や授業改善に生かしていきます。園側は、小学校での具体的な生活や学習場面で基盤となる必要な資質・能力とは何かを捉え直し、長期的な視点を持ちながら保育改善に生かしていきます。結果として、園で育まれた資質・能力を小学校へつなぎ、生かすサイクルが構築され、互いの教育・保育の更なる充実が図られます。

資質・能力をつなぎ、生かすサイクル

①保育参観（参観の視点例）

自ら考えたり、他者と協力したりしながら主体的に遊びに向かう子どもを育てるための指導について

②協議

参観の視点や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした協議



③資質・能力をつなぎ、生かす実践

園や小学校生活において指導上留意したい点や共通実践したい点を出し合い、日々の実践に生かす

① 保育参観における子どもの姿（下線は参観の視点と関連している部分）

切り取った段ボールを数枚貼り合わせたものにゴムタイヤを付け、ミニカーを作る遊びを以前から継続している。その車を使って遊びながら、少しずつ形や色柄を変えたり、速く走らせるにはどうしたらいいか考えたりするなど自分なりの工夫をする姿が見られ、自分の車に愛着をもって作っている。どうすればより速く走らせることができるのか悩んでいる子どももいるが、友達に聞きながら自分の車を何度も改良している姿が見られる。友達と一緒にカーレースのコースを作ったり、ルールを決めたりする中で、自分の思いを伝えながら遊びを進めている。

② 参観の視点や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした協議

（今の育ちに関する事、小学校生活や学習の具体的な場面にどのようにつながるのかを協議）

<今の子どもの姿を踏まえ、考えたり、工夫したり、協力したりする内容の質等を長期的な視点で捉えた協議>

【協議の目的】子どもの姿を基に、今後どのような経験が必要か理解したり、指導を工夫したりしていくのか検討し、育ちをつなぐ保育実践に生かす

- ◇「協同性」と関連した子どもの姿
 - ・思いを伝える姿が多くあった。友達の意見を聞くことができるような援助をしていく。
- ◇「自立心」と関連した子どもの姿
 - ・自分の力で物事を進める姿が見られた。達成感を味わわせるような状況をつくっていく。
- ◇「思考力の芽生え」と関連した子どもの姿
 - ・物の仕組みに気付いたり、考えたりすることができるような環境の構成の工夫を心掛ける。



<小学校生活や学習の具体的な場面へのつながり等についての協議>

【協議の目的】小学校生活や学習の具体的な場面を想起しながら、育ちのつながりの理解や指導に生かす

- ◇「協同性」が小学校生活や学習の中で見られる姿
 - ・集団生活の中で、目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力する姿
- ◇「自立心」が小学校生活や学習の中で見られる姿
 - ・自分なりに考えて意見を言ったり、分からないことや難しいことは、教師や友達に聞きながら粘り強く取り組んだりする姿
- ◇「思考力の芽生え」が小学校生活や学習の中で見られる姿
 - ・試行錯誤しながら主体的に問題や課題を解決しようとする姿



③ 協議から資質・能力をつなぎ、生かす実践

（園と小学校で日々の保育や授業で意識したいこと等を協議し、実践の見通しをもつ）

- ・一人一人の子どもの考えを引き出すような問い掛けをしたり、子どもの実態に応じたコーディネート工夫したりする。
- ・友達同士で考えを出し合う過程を丁寧に見取るとともに、考えを出し合うことのよさを子どもが実感できるように価値付ける。
- ・子どもが自ら選択したり、試したりすることができるように、ものや時間等の環境を整える。

①～③を繰り返し行うことで、子どもの姿から育ちのつながりが具体的に見えてきます。園と小学校が協働して子どもの育ちを支えていくことを意識し、計画・実践へと結び付けていきます。